

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス あらかると		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 17日		～ 令和7年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 17日		～ 令和7年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児ひとりひとりの障害特性にあわせた発達支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自立課題については、個々の発達にあわせた課題を提供し毎日取り組んでいます。 ・日々の取り組みをサービス提供終了後に振り返り翌日の支援につながるよう意識しています。 ・外部の専門家を招き、支援課題や支援方法について第三者的視点から助言を得ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通じて職員のスキルアップに取り組みます。 ・集団活動についてはマンネリ化防止のため新しい取り組みを企画します。
2	・全職員、常勤職員を配置	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員を配置することで、利用児の日々の変化を的確に把握するよう努めています。 ・経験豊富な職員を配置することで的確な助言が迅速に行える体制を整えています。(職員の80%が経験10年以上、60%は経験20年以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員の採用を継続し、「日々、職員の顔ぶれが違うため支援・指導方針の一貫性が保ちにくい」体制は回避します。
3	・未就学から成人まで、ライフステージに応じた連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人にて成人の入所施設、通所施設、グループホーム、相談支援事業を運営しているため、こどもの将来像についても保護者と話し合うよう努めています。 ・児童発達支援センター、特別支援学校が隣接しているため、未就学から就学時まで各種機関と連携、情報の共有化を意識しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各機関との連携を強め、こどもの発達支援を提供します。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の子どもとの交流	<ul style="list-style-type: none"> ・重度でコミュニケーションに課題をもつ利用児が多いため事故の発生のおそれがあるため ・マンツーマンで職員を配置できないため事故の発生のおそれがある ・利用児、保護者ともに、ニーズとして顕在化していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も年に1回、悪意にしている放課後等デイサービスとの交流会は企画します。 ・職員の質を向上させ利用児の発達を促し、事故発生確率の減少を図ります。
2	保護者会やきょうだい向けのイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年1回、保護者への活動報告会は開催していますが、参加率は30%前後です。 ・きょうだいむけイベントは開催していません。 ・全利用児が同じ学校のため、保護者交流は学校のPTAで関わり放デイにまでは求めない保護者もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだいむけイベントはニーズがあれば検討します。 ・今後も年1回の活動報告会は開催します。
3			